

No. 443

しゅうだんえっとう ナミテントウの集団越冬

例年ですと、3月も中旬を過ぎると暖かい日が続くようになり、成虫で冬越しをしていた虫たちが姿を現しますが、時には、2月中でも暖かい日があると昆虫の姿を見ることがあります。おなじみのテントウムシも、そのような成虫で冬越しする昆虫ですが、どこに隠れていたのでしょうか。テントウムシにも多くの種類がありますが、越冬の生態がよく知られているのがナミテントウです。ナミテントウは、多くの個体が集まって、石の割れ目や木のうろの中、山小屋の隙間などで越冬することが知られています。ナナホシテントウは、ススキなどの草むらの根際で集まって越冬しているのを見ることが出来ますが、ヒメアカボシテントウなどでは、木の皮の裏側などで1、2頭が越冬中のを発見する程度で、まとまって多くの個体は見られません。

写真は、砺波市頼成の森のバーベキュー広場に設置してあるバーベキューかまどの中で、見つかった集団越冬中のナミテントウです。これは全体のごく一部の写真です。ナミテントウは体長7mmほど、黒地に赤い2つの紋や4つの紋、赤地に黒の19紋、黒紋の全く無いものなど、これが同じ種なのかと驚くほど斑紋の変異があります。写真にもいくつかのタイプが写っていますが、いずれも同じ種類ナミテントウです。なお、一緒に越冬中の足の長い大きな虫は、カメムシの一種オオトビサシガメです。

集団越冬に入る前には、集団移動が見られることがあります。晩秋の晴れた暖かい日、吹きあがる風に乗って、谷の斜面を舞い上がっていったナミテントウの集団を目撃したことがあります。あたり一面飛んでゆくテントウムシでいっぱいでしたが、数分でその飛翔は終わってしまいました。これが、越冬地への集団移動だったのですが、どこで越冬したのかは分かりませんでした。

ナミテントウは、10月から11月に気温が十度から十数度になると、白色や明るい色を目指して山の南斜面で移動を繰り返し、10度より下がるようになると岩の隙間などで越冬に入るようにです。

(根来 尚)



2011年1月23日、砺波市頼成の森バーベキューかまどでナミテントウとオオトビサシガメが仲良く越冬中（加藤治好氏 撮影）